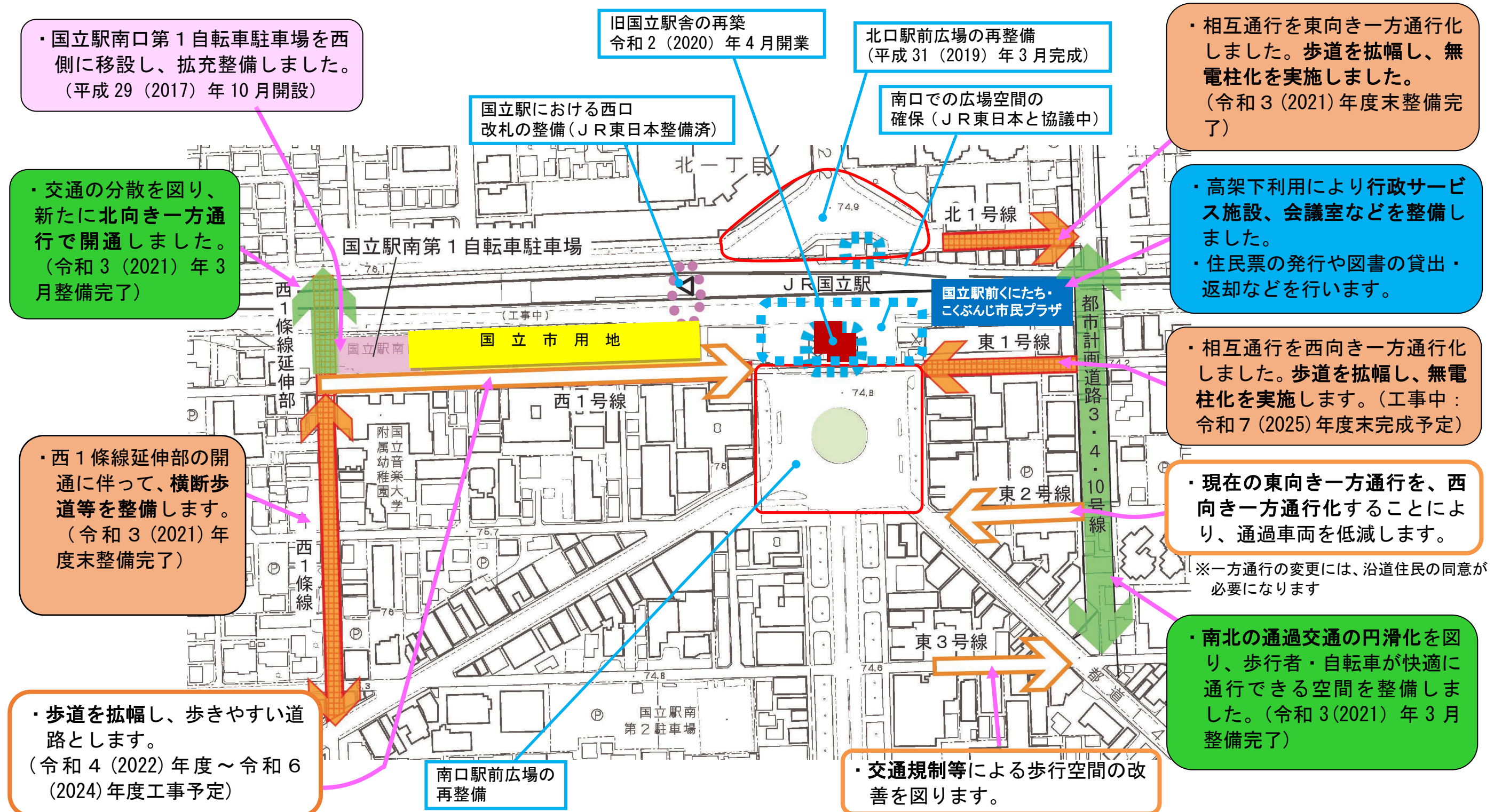




① 国立駅周辺整備事業の考え方

- ・国立駅周辺を歩きやすい空間とするため、道路の一方通行化を行い、歩道を拡幅します。また、国立駅周辺の交通体系を変更することで国立駅前の通過交通を低減します。
- ・なお、歩道整備にはユニバーサルデザイン^{*}を取り入れ、だれもが安全・安心に通行できるようにします。これにより、にぎわいのある広くて快適な歩行空間が整備されます。

^{*}ユニバーサルデザイン：しょうがいや年齢などにかかわらず多様な人々が利用しやすいように、生活環境などをデザインすること





② 交通体系の変更（令和3年（2021年）3月27日）

- ① 都市計画道路3・4・10号線が開通し、② 東1号線が西向き一方通行化したこと等により、南口駅前広場の交通量が低減します。
- これにより、今後、円形公園や南口駅前広場を活用したイベント等の開催も可能になります。

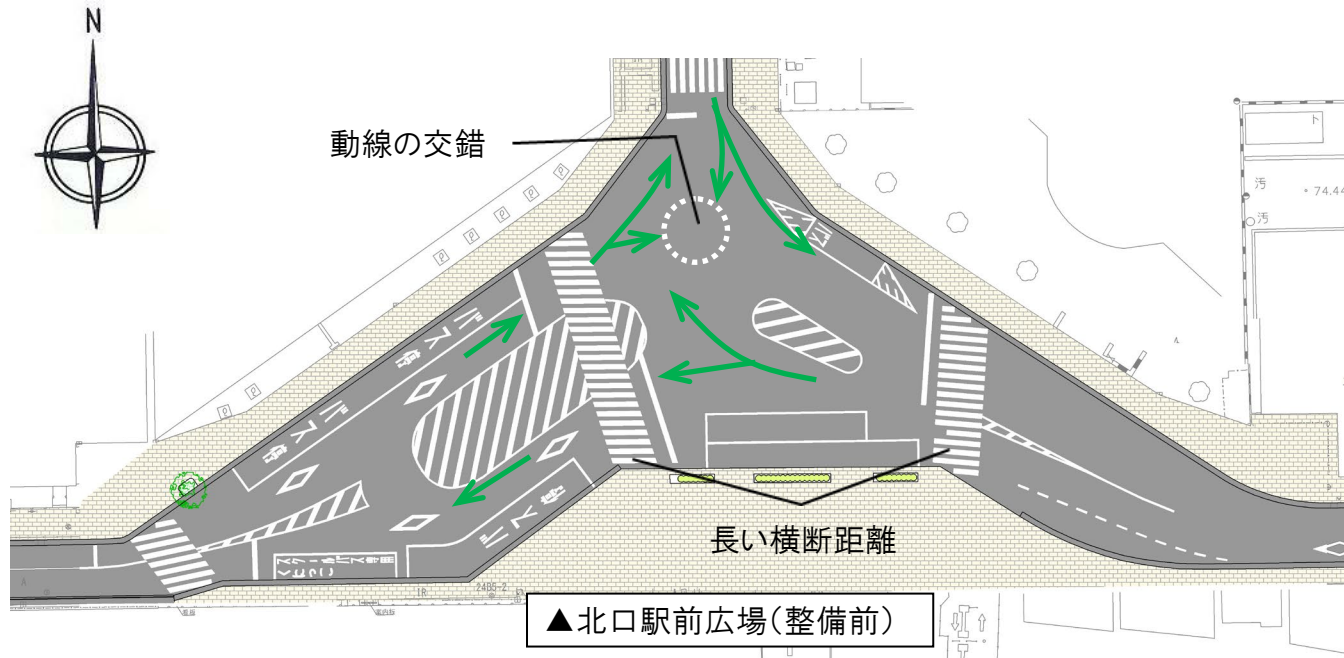


【数字で示した内容】

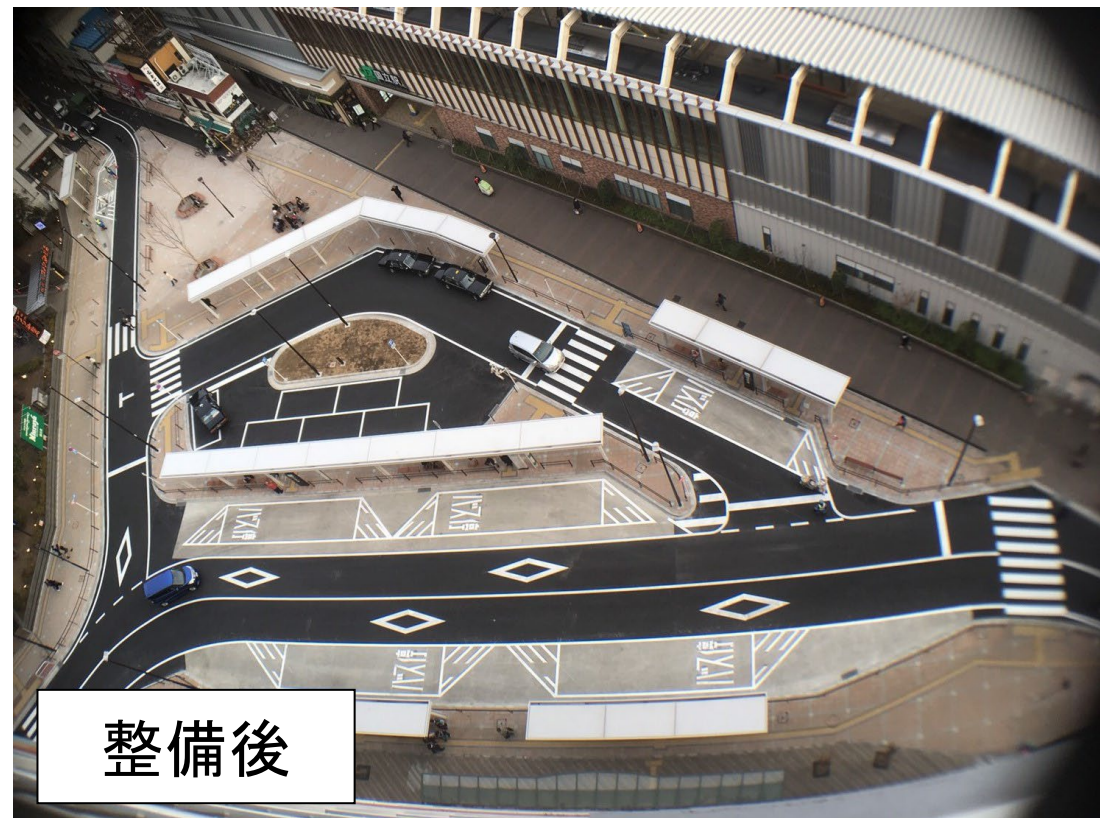
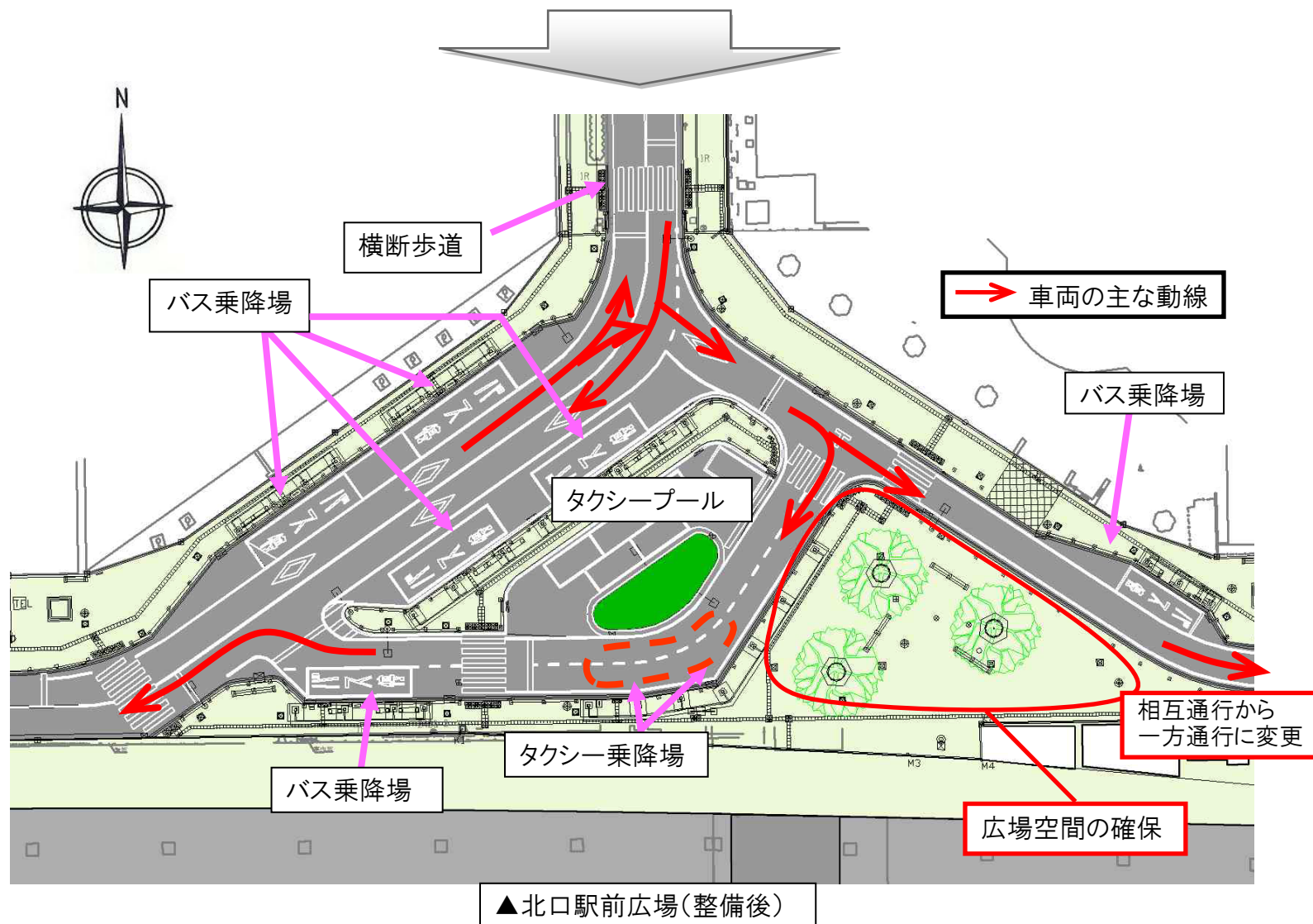
- ①：都市計画道路3・4・10号線（南北の主動線）の開通
- ②：西1条線延伸部（北向き一方通行）の開通
- ③：交通量の多い3・4・10号線への信号移設
- ④：西1条線の南北交通優先化（交通円滑化）による信号撤去

※図中の▲1と▲2の交通規制については、今後の沿線住民や交通管理者との協議により変更となる場合があります。

③ 北口駅前広場（平成31年（2019年）3月完成）



- ・歩行者の横断距離を短くして、安全性を高めました。
- ・バスの間隔、横断歩道からの離隔を十分に確保し、また、動線交錯を減らすなどして、車も安全に通行しやすいように整備しました。
- ・南北通路北側に広場空間を設け、南口・北口駅前広場の一体的な活用を図ります。
- ・広場空間を整備することにより、“くにたちらしい新たなにぎわい”を創出します。





④ 南口駅前広場整備の考え方

◆基本的な考え方

- ・ロータリーとしての交通体系を維持したまま、歩行者空間を拡充します。
- ・道路上のタクシープールを路外にまとめるなどゾーニングを分け、動線交錯を減らすことで安全性を高めます。
- ・バスバースを広場外周に配置し、バリアフリー化を図ります。
- ・非日常的な歩行者空間としての南口広場や円形公園の活用を検討します。

◆旧国立駅舎の再築

- ・旧国立駅舎は、駅利用者の歩行動線の確保のため、南、西側に以前の位置よりそれぞれ約**4.9m**、**3.2m** 移した位置に再築しました。

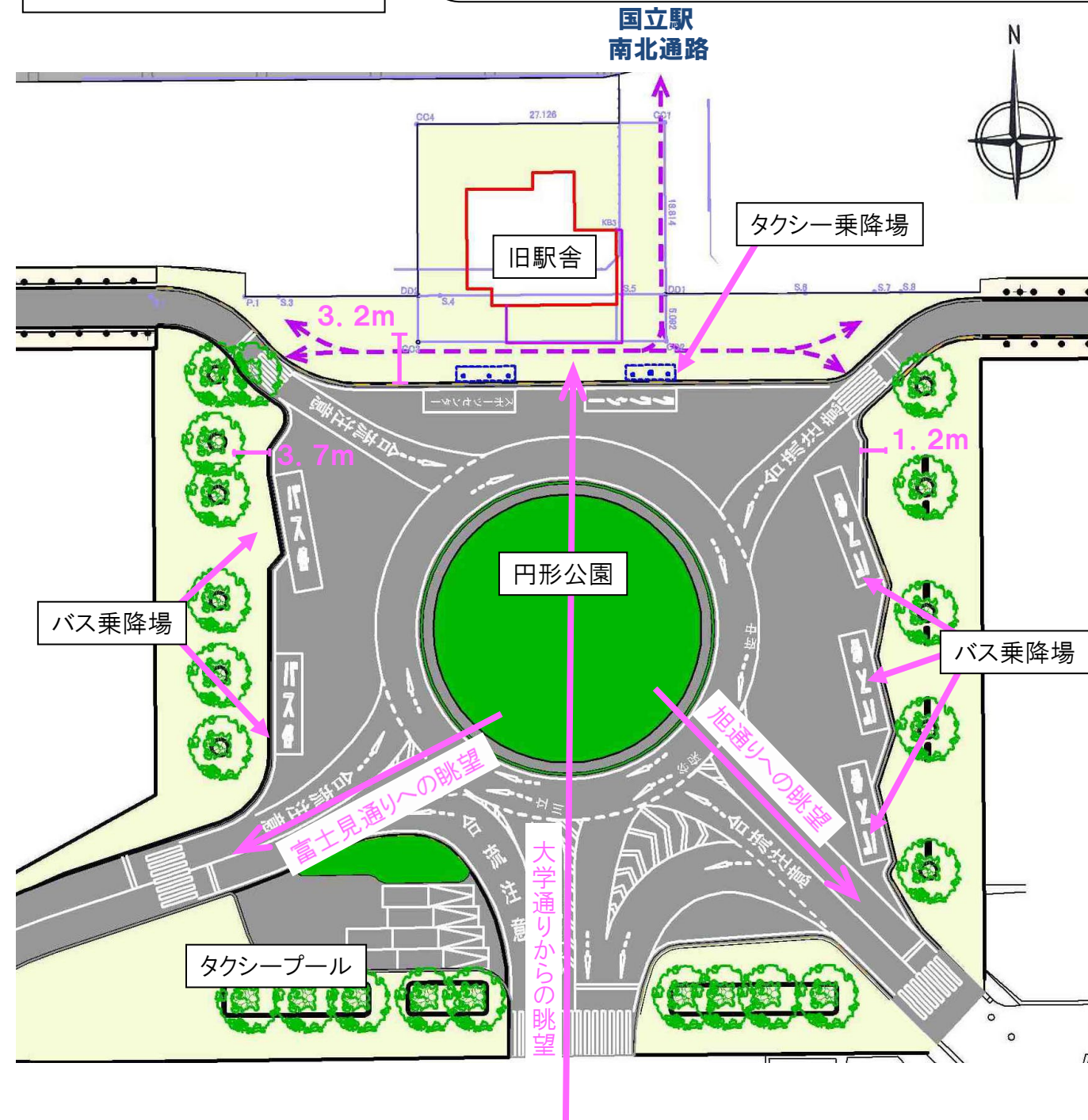
◆駅前広場の形状

- ・大学通り、旭通り、富士見通りの3路線の要となる駅前広場に面して旧国立駅舎を再築することにより、くにたち草創期からの歴史的な配置を回復します。

◆円形公園の再整備

- ・交通管理者および交通事業者の協力は必要となりますが、将来は非日常的に円形公園も活用したイベントを行い、市民の皆さまにとって憩いの場となる空間として再整備します。

▼南口駅前広場完成イメージ図



◆歩行空間の考え方

- ・北、東、西側にそれぞれ約**3.2m**、**1.2m**、**3.7m** 歩道空間を拡幅するとともに、バリアフリー化を図り、安全性を高めます。

◆駅前広場の形状

- ・大学通りを中心とした左右対称のロータリーなど、くにたちのまちづくりの歴史を継承した広場とします。

◆駅前機能の考え方

- ・現在の交通体系を維持したまま、歩行者空間を拡大し、だれもが安心して通行できる空間を創出します。

※交通管理者協議により、タクシー乗降場の配置など内容が変更になる可能性があります。